朝日連峰大朝日岳山麓

ハチ蜜の森から

No. 32

神戸を守る鉄人 28 号
震災から 15 年の神戸に行ってきました

ハチ蜜の森
採蜜ができるトチやキハダをはじめマンサク、コブシ、カエデ、ヤマザクラ、ドウタン、ウワミズザクラ、ミズキ、クリ、ハクウンボク、タラ、コシアブラ、センノキ、ヌルデ、クズ、イタドリ…と、数多くの蜜源樹や植物を抱える森のこと。ハチ蜜の森キャンドルは、その森の入口にあります。

編集発行
ハチ蜜の森キャンドル
代表　安　藤　竜　二
〒990-1573 山形県朝日町立木 825-3
☎とファクシミリ　0237-67-3260
メール mitsurou@alto.ocn.ne.jp
ホームページ　www.mitsurou.com/
発行日　2010 年 2 月 2 日

私と身体

右手親指を切って三針縫いました。

実家のハチミツ収穫作業を手伝った最後の日のことです。妻と一緒に担当しているのは、ハチミツの貯まった巣穴にかけられた蓋を切りとったり、余計に分厚くなった巣をもとの厚さにスリムにしたりする作業です。

切ってしまったのは、情けない事に作業中ではなく、包丁を研いている時のことです。蜜刀と呼んでいる長い包丁を使っているのですが、蜜蝋のねばりに負けてしまうので、毎回研いでから始めるのが日課なのです。この日は一ヶ月以上も続いた採蜜の最後の日ということもあり、いつもより念入りに研いでいました。調子に乗って刃の部分だけてなく本体のほうも磨きたくなり、手に持って砥石をこすりつけていたのです。

一瞬、砥石が包丁からはずれ、気付いた時には、右手の親指の外側が深く切れ、切り口がまるでスライスハムのようにずれていました。痛みとともにみるみるうちに血がわき出し、その様子を見てさすがに吐き気がして、へたりこんでしまいました。幸いな事に妻が大きなカットバンを準備していたので、きつく押さえて病院へ向かいました。その日の作業は中止になり弟にも、手伝いの方にもムダな時間を過ごさせてしまい、申し訳ないことをしてしまいました。

町立病院の先生がていねいに縫って下さいましたが、寝ての処置だったのでその恐ろしい様子は見ないで済みました。初めての経験でした。おかげで親指に一本の線は残りましたが、見事にきれいにくっ付きました。

しかし、半年以上も経ちだいぶ良くなったのですが、今でも指先にしびれが残り、ぶつかるとぴりぴりと痛く、ロウソク製造には不便な右手となってしまいました。特にはさみで芯糸を切りそろえる作業は、柄をずらして手にかけるものの、時々ずれて傷口にあたり度々小さな悲鳴を上げる始末です。筆圧本意

の書き方だった字も、力が入らず益々ミミズのようになってしまいました。子供の頃から手先の器用さを誉められて育ち、崇高な蜜ロウソク職人を目指す者としてなんとも情けない出来事になってしまいました。

私の小さな切り傷は茶飯事な事で、以前に「右手が、支えてくれている左手をやっつける」という話を書きましたが、今回はまさに左手の報復となってしまいました。

でも、万一あの時、指を無くしていたら、別の道を探さなければならなかったでしょう。この仕事が生きがいとなっているだけにぞっとしてしまいます。今では何をするにも気をつけるようになりました。これも崇高な職人になるための課題だったのかも知れないと、前向きに思い直しているところです。

それからもう一つ、視力も弱くなりました。

小学生時代は 2.0 をマークした自慢の視力でしたが、昨年から近いもののピントが合わないのです。5 センチ位離すと見えますが、当然小さな字は小さくて見えづらいのです。近いものばかりでなく壁のカレンダーの字もぼやけてしまいました。

「これは、まさか？」

薬屋さんの目薬コーナーに行って驚きました。待ち構えていたように 40 代からのコーナーが設置されてありました。試しに郵便局で赤

いメガネをかけてみると、すっきり見えました。間違いありません。どうやら初期とはいえ「老眼」のようです。まだ45歳なのに！

振り返れば、製造業ではありながらお客様の注文メールのやりとりや納品伝票の打ち込み、3 つのホームページの管理など、パソコンの前に座っている時間が近頃とても多くなっているのです。気晴らしに大好きな携帯麻雀ゲームもやってしまいます。

特に、出張した時に駅のホームで遠くの掲示板が見えないのは不便です。見えないという事は近くまで行かないといけませんが、行ってみると違う場所だったりして、また目的の場所を探してうろうろしている状況です。歩きまわる時間がだんぜん多くなりました。「自分はなんて高性能な目を持っていたのだろう」と、今更ながらもったいないことをしたなと感じています。

ずーっと成長中と過信していましたが、身体は消耗品だったのです。改めて身体と自分を分けて考えられるようになりました。自分の大切な乗り物を、無理な事をしてもったいないことにしてはいけないなとつくづく思った二つの出来事でした。

1.17 つどいの様子

NEWS　（表紙紹介）

阪神淡路大震災 1.17 のつどいより

リトルライトネットワークに感謝状

阪神淡路大震災から 15 年。大変おこがましいことですが、神戸市三ノ宮の東遊園地で毎年開催される追悼行事「1.17 つどい」の実行委員会からリトルライトネットワーク活動に感謝状をいただきました。

つどいが初めて開催される時に、竹灯籠用のロウソクの作り方をお教えし、山形のたくさんの人たちと毎年その製作を協力してきたのです。当時、朝日新聞神戸支局の角田陽子記者が実行委員長の中島正義さんに私を紹介下さり、その縁がはじまったのでした。

15 年経った神戸は、高くてきれいなビルがさらに建ち並び、益々都会の風格を取り戻していました。新しい復興のシンボル鉄人２８号も凛々しく立っていました。反面、つどい会場では多くの方の涙を見受け、まだまだ終わっていないことを痛烈に感じました。応援しているシンガー“おーまきちまき”さんも、変わらず元気になる歌をガンガン歌っていました。

最後に「震災の恐ろしさを忘れないための大切な活動になっている」と、こちらからも感謝状を作り中島代表に渡してきました。

滞在中は、以前にお世話になった方々に、再びお世話になりました。おみやげもたくさんいただきました。被災地の皆さんの優しさにふれ、またしても励まされて帰ってきたようです。本当にありがとうございました。

※神戸を訪ねた報告をたくさんの写真を使ってハチ蜜の森キャンドルのホームページで紹介しております。併せてご覧いただけましたら幸いです。
アドレス　http://mitsurou.com/

※リトルライトネットワーク活動に参加ご希望の方は、ハチ蜜の森キャンドルへお問い合わせ下さい。個人、団体で、被災地の追悼行事で使用するロウソク作りの協力ができます。

NEWS

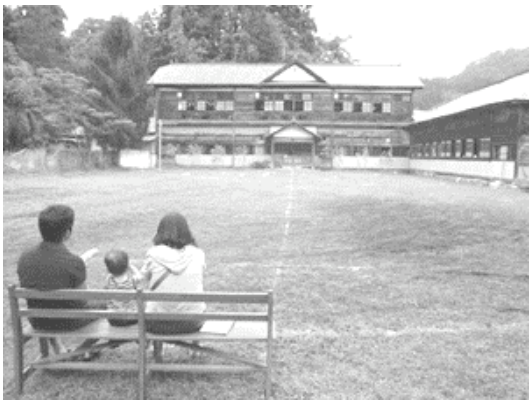
木造校舎のある公園　開園そして閉園

８月８日、全国で初めての「木造校舎のある公園」を旧大暮山分校に開園しました。お盆過ぎからの解体工事と聞き、感謝祭をしたいと町に頼み込んでいたのです。私たちにとってそれは「古い校舎を建たせておくだけで価値がある」ことを伝える最終プレゼン（発表）でした。

一晩かけて彫った「木造校舎のある公園」の表札を校門に掲げ、地元大暮山の若い兄妹スタッフ３人に紅白リボンを切ってもらい開園しました。公園と言っても、私の工房の木製ベンチを三つ校庭に置いただけです。

「キンコンカンコン」のチャイムのあと、ルールのない白い紙ひこうき大会を開きました。校庭ではスタッフの企画で開店した自転車のアイスクリーム屋が人気を集めました。スイカ割りも楽しみました。参加常連の皆さんやはじめての皆さん、卒業生も入れ代わり訪ねてくれました。夕方にサンクスキャンドルの蜜ろうそくをみんなで作り、校舎と人気キャラの大黒様の感謝の舞を照らすことができました。テーマ曲を合唱して前夜祭を終えました。翌日もひっきりなしにたくさんの方が訪ねて下さり自由な公園の時間を過ごして行かれました。

偶然、ベンチに座って校舎を眺めていたご家族のお父さんが小さなお子さんの頭を撫でながら「お父さんの学校なくなってしまうんだよ」とつぶやくのを聞いて目頭が熱くなりました。



木造校舎のある公園/旧大暮山分校

NEWS

そして大暮山分校舎解体

壊されている姿を見るのは忍びないと、見に行かないつもりでしたが、最後まで見届けてあげなければと思い直し、毎朝、毎朝見に出かけました。大切な親友を失ってしまうような心の痛い風景でしたが、昔と違って分別解体なので、ていねいに掃除をしながら壊して下さっていることがせめてもの救いでした。

参加者の靴でゴッタ返した昇降口、思い出だらけの体育館。スタッフルームにしていた保育室、出会いだったスズメバチ駆除した軒天…。壊される場所ごとに、参加者や仲間達とのドラマチックな思い出が溢れ出てきました。

飛行場にしていた二階の真ん中の教室がいよいよ解体される朝、奥のせまい階段を上り、壁のない教室から最後の白い紙ひこうきを飛ばしてみました。ゆっくりフワフワと 15m ほど飛び、静かに着地しました。心の中で、10 年続いた白い紙ひこうき大会が静かに閉会しました。

教室に頭を下げ、校舎に頭を下げ、分校をあとにしました。「キンコンカンコン…」校舎から最後のチャイムが鳴ったような気がしました。

※解体の様子をつぶやき交じりで UP しております。
よろしければ、白い紙ひこうき大会サイトをご覧下さい。
http://samidare.jp/ryuzi/

解体風景

NEWS

雑貨専門誌にて雑貨部門１位

雑貨の専門誌『basket.』（主婦と生活社）の vol.2 が発売されましたが、読者が選ぶ人気雑貨ランキングで、驚くことに「カヌレ型キャンドル」が第１位で紹介されました！

昨年掲載された vol.1 号で、フラワースタイリストの平井かずみさんが、きれいな写真と推薦文で２ページわたり紹介下さったのでした。ハチ蜜の森キャンドル20年＋1年生の年に大きなご褒美をいただいたようでした。

■私のカントリー
別冊『basket. 2』
ベスト雑貨アンコール
（主婦と生活社）

2009.12.22 発行

ご紹介いただきました

・日本経済新聞 12/10 日経アートレビュー
　森が生む自然の明かり-蜜ロウソク
　文/畑中麻里　写真/竹邨章
・LEE 12 月号（集英社）
・basket.2（主婦と生活社）
・TOMORROW 7月号（ライフカード）道具紀行
　文/つるやももこ
・MAMORU.vol.6（日本パープル）
・知っとこ！（毎日放送）10/24
　今週コレ知っとこ！
・TBSラジオ「ちょっと森林のはなし」1/30
・BE-PAL 2月号　（小学館）
　絆時間を楽しむ方法17
・日本文化チャンネル桜
　【葛城奈海】ショートコラム

ありがとうございました。

蜜ろう利用術⑩

紫 雲 膏
（しうんこう）

仙台市一番町にある漢方の㈲西堀薬局さんは、10 年以上前から「紫雲膏」の基剤として私の蜜蠟を使って下さっています。２度目の注文の折りに「良質な蜜蝋に出会えた」と言葉をいただき嬉しさがこみ上げた事を思い出します。代表の鈴木弘明さん（77）に改めて電話でお話を伺いました。

鈴木さんの作る紫雲膏は、消炎効果のあるシコンや血を温めるトウキをゴマ油で抽出し、油を固めるために蜜蠟を加えて作ります。ひび、あかぎれ、しもやけ、魚の目、あせも、ただれ、外傷、火傷、痔核による疼痛、肛門裂傷、かぶれなど皮膚の炎症や乾燥に良いそうで、近頃はアトピーの方の利用が増えているそうです。リピートして買われる方も多いとのこと。なにしろ成分の４分の１にあたる蜜蠟を毎年 5kg､10kg と買っていただいているのです。多くの皆さんに愛用されていることを納得させられます。お話を伺っている最中にも受話器の向こう側で紫雲膏を求めるお客様がいらして驚きました。

材料は蜜蠟に限らずどれも良し悪しがあり、良いものを使えば効果もその分優れるとのことで、たとえばトウキは貴重な大和産、シコンは優品の硬紫根を使っていらっしゃいます。中国由来の漢方薬と思っていましたが、江戸時代の外科医「華岡青洲」が考案したものだそうです。

西堀薬局の始まりは近江から呼び寄せられた伊達家おかかえの「小谷薬種屋」で、鈴木さんのおじいさんのでっち奉公先でした。おじいさんは奉公が終わり東京で食器の店を開き繁盛しますが､小谷薬種屋の経営が傾いたことを知り、商売を捨て仙台に戻り、立て直しに尽力なさったのだそうです。西堀薬局の真摯な漢方薬づくりは、そのような先代から続く優しさが今に息づいているのだなと感じました。そして、私の蜜蠟が多くの人に役だっていることに、また格別な嬉しさがこみ上げました

ハチ蜜の森文庫⑪

『ブナの森通信』
西澤信雄 著（無明舎）
1680 円

大朝日岳麓の山小屋「朝日鉱泉ナチュラリストの家」代表の西澤信雄さんが、朝日新聞山形版で 10 年間連載した「ブナの森通信」を一冊の本にまとめたネイチャーエッセー集です。ハチ蜜の森キャンドルのことを紹介して下さったエッセーには「クリスマスの夜、どこかの家でともした蜜ろうのキャンドルの、その炎の中に、きっとブナの森が見えると思います。」と閉じられています。私も若い頃に西澤さんの山小屋でバイトをしたことがありました。ほとんどの著書には私や家族が紹介されています。よろしければぜひご覧下さい。

ハチ蜜の森文庫⑫

『母のレシピノートから』
伊藤まさこ著（講談社）
2006 年発行　1400 円

お客様から「伊藤まさこさんの本に写っていて気になっていた」と教えられ、さっそく購入してみました。この本は伊藤さんの料理の原点でもあるお母さんの愛情いっぱいの料理を、思い出と共に季節ごとに紹介しているものです。

私の蜜蝋キャンドルはクリスマスの鳥の丸焼きとパスタの写真にシャンパンと一緒に写っていました。きれいなお皿に 7 本枝ツリーが載せられ、イブの大切な役割を担っているようで、なんとも嬉しくなりました。ありがとうございました。大きな励みになりました。

ハチ蜜の森料理店㉛

バターナッツかぼちゃ

毎年続けている「かぼちゃランタンで小人の村づくり」で 5 年程前からバターナッツかぼちゃも使っています。かぼちゃらしくないヒョウタンのような形をしていますが、皮が薄いので、キャンドルを灯すとまるごと透けてとてもきれいなのです。いつも数個しか手に入らなかったのですが、今年はあちこち探し回りたくさん手に入れることができました。

無性におなかが空いた深夜残業のある夜のことでした。ふと、飾っていたこのカボチャが目に入り、縦に 4 等分にして鍋にかけました。

煮えたカボチャを取り出して皿に載せると、その形がかわいらしく、種の入っていた凹みはハチミツを入れるのにちょうど良いものでした。

まずはハチミツを付けずに食べてみましたが、充分に甘くておいしく、絹で濾したような舌触りが不思議な食感です。

いよいよハチミツの入れてある凹みを崩すように食べてみました。やはり絶妙なとりあわせでした。しかも種の入っていた下の部分は粒子が粗くハチミツと絡み合い、違った美味しさ感じます。しかも食べ方が高級メロンを食べているようでおしゃれで、最後にぺらぺらの皮一枚だけ皿に残るのもなんともこっけいです。

クリスマスまで何個も食べ続け、ついに残りが一個となってしまいました。食べたいけれどなかなか食べられない日が続いています。

ハチ蜜の森料理店の開店の目処は未だたっておりません。もう暫くお待ち下さい。

朝日連峰養蜂四方山話⑬

花粉交配とミツバチの病気

昨年はミツバチの減少がたくさん取り沙汰されました。ダニや病気の猛威、農薬被害、どうやら様々な理由が重なってしまったようです。確かに実家のミツバチも少し元気がないようでした。春の蜂蜜の収穫量もとても少なく、このあたりの養蜂家はみんなまさに「泣きっ面に蜂」状態だったようです。

でも、果樹農家の皆さんが花粉交配用のミツバチが手に入らずに大慌てした理由は、大量に輸入予定だった外国産の女王蜂に病気が見つかって日本に輸入されなかったからなのです。と、言ってもそれは私の実家のような蜂蜜収穫を目的とする通常の養蜂家には関係ないことです。もちろん、花粉交配にも貸し出しはしているのですが…。

どういうことか整理して説明すると、まずは飼い方です。蜂蜜を収穫するためには、ミツバチの家族性を大切にして一匹でも多くの働き蜂を維持しなければなりません。そのために養蜂家は一年中、いろいろな世話をするのです。花のない季節は餌をやり、巣箱を清潔なものに交換し、寒い時は紙で内側を囲い、毎日のスズメバチの襲撃から守り、電気牧柵でクマからも守ります。冬場には 600㎞ 離れた南房総まで連れて行き、さらには家畜保健所に頼んで病気の検査も受けています。収穫のためと言われればそれまでですが、養蜂家のたくさんの愛情がミツバチに注がれ、人間寄りとはいえ「いい関係」がそこに生じていると思うのです。ただ、一人で飼える群れ数には限界があり、作付けが増える果樹農家の皆さんのニーズには応えきれなくなっているのが現況です。

ところが近頃、そこに目をつけ愛情のない方法でミツバチの群れを簡単に量産し、大量に花粉交配用に販売する商売が始まりました。その方法は、通常３万匹前後いるミツバチの家族を五つにも六つにも、段ボールやベニヤ板でできた粗末な小箱に分け、そこに外国の養殖業者から大量に輸入した女王蜂を、一匹ずつ入れ即席

な家族を作るという強引なやり方です。家族をばらばらにされたうえに、外国から来た継母をあてがわれてしまうのです。こうして簡単に 100 群のミツバチを 500 群や 600 群に増やすことができます。そして、それをとてもいい値段で販売する商売です。でも、それが悪い事だとはけっして言えないです。人間は他の生き物の命を犠牲にして生きているのですから。

ただ、困ったことが起き始めています。病気が蔓延しはじめているのです。交配が終わると購入した農家の方は飼育できないので、そのまま使い捨てとなってしまいます。ミツバチは花のない季節に大きな群れが小さな群れから蜂蜜を奪う習性があります。ミツバチの世界ではあたりまえな摂理です。この「小さな群れ」に先ほどの使い捨て蜂もあたるのです。

元々、養蜂家の世話なしでは日本では生きられないセイヨウミツバチです。しかも家族構成も成り立たない群れが、手入れもされず、農薬をかけられれば、益々蜂数を減らしてしまうのはあたり前のことです。やがて衛生状態が悪くなり、なりを潜めていた恐ろしい病原菌に冒されます。そこに通常の養蜂家の大きな群れのミツバチが蜂蜜を奪いに入ってしまい、病原菌を自分の群れに運び二次感染してしまうのです。販売業者は花粉交配が終わったら焼却処分する事を前提に販売していますが、かわいそうなのと次のシーズンも使えるのではという期待から、きちんと処理する農家の方はほとんどいないようなのです。

収穫を得るために農薬を使い、果樹園に媒介昆虫がいなくなり、ミツバチを手配し、さらに足りなくなるとミツバチが工業製品化され、弱くなり病気を招き、また蜂が足らなくなる。通常の養蜂家もその仕組みの一部でお金をいただいているので強い事は言えませんが、やっぱりなんだかおかしいなと思ってしまうのです。

2010年イベントのお知らせ

■スノーランタンの森づくり

雑木林に雪のランタンを作って森を照らします。蜜ロウソクも作ります。

日時　2月13日（土）
　　午後2:00ー暗くなるまで
場所　家族旅行村Asahi自然観内
定員　20人　要申込み
参加費　大人2500円　大学生2000円
　　中高生1500円　小学生1000円

■ミツバチ観察会と原始ロウソク作り

トチノキのハチミツ収穫期。ネットをかぶってミツバチ観察をしませんか？少しドキドキしますが、巣箱の中は知らないことがいっぱいです。蜜源樹のトチノキも見に行きます。ミツバチの巣そのものに糸をはさんでロウソクも作ります。自然とのつながりを感じて下さい。

日時　5月23日（日）午後1:30ー
場所　さくら養蜂園白倉蜂場
参加費　大人1000円　小人500円

■かぼちゃランタンで小人の村づくり

紅葉のハチ蜜の森にかぼちゃランタンを並べて小人の村を作ります。

日時　11月6日（土）
　　午後　1:30ー暗くなるまで
場所　家族旅行村Asahi自然観内
参加費　大人2000円　小学生1500円

Asahi自然観に宿泊なさってゆっくり楽しまれることもお薦めいたします。

http://www.shizenkan.jp/

編集雑記――――――――――――――――――――――――

阪神淡路大震災そしてリトルライトネットワーク活動から15年。振り返ると不思議な偶然の連続でした。一番の驚きを一つ。

はじめての年、600人分の手作りキャンドルの配り先を事前に探して下さり、一緒に廻って下さったのが伊丹市の森信子さんです。朝日鉱泉ナチュラリストの家の西澤信雄さんが全国組織のネイチャーゲーム協会に働きかけご紹介いただきました。森さんには本当にお世話になりました。なにしろ「伊丹の母」と呼ばせていただいている程です。

ところで、2/2は蜜ろうそくの明かりを最も尊ぶキリスト教の、明かりに感謝する聖燭祭「キャンドルマス」の日です。年によっては2/1に開かれます。日本では催している所はあまりないようです。もともとは、ケルト時代から続くイモークと呼ばれる春の女神が帰還するお祝いの日が始まりとされ、イギリスの魔女はこの日に三本のキャンドルを灯して「三人は一体となる…」と呪文を唱えるのだそうです。なんだか昨年復刻した三本枝ツリーの三位一体のコンセプトにぴったりです。

実は、私の小さな自慢になっているのですが、2/2は私の誕生日なのです。17年程前、収入が少なくこの仕事をやめようと思った時にこの事実を知りやめずに済みました。

そして、森さんは2/1生まれなのです。しかも二人とも血液型はB型。さらに同じ「辰」年生まれ。被災地にキャンドルを配って歩いたのは、キャンドルマス生まれの二人だったのです。若い私は運命的な出会いに感じ、森さんに甘えてすっかりおんぶに抱っこさせていただいたのでした。

さて、酒田市社会福祉協議会の菅原千佳さんは、リトルライトネットワークのキャンドル作りを、はじめから協力下さり庄内地区の活動を大変盛り上げて下さった方です。それだけでなく、ボランティアの中高生を連れて、何度もハチ蜜の森キャンドルに体験にいらして下さいました。今回は感謝状をいただきに神戸にご一緒させていただきました。

伊丹市の追悼の集いを訪ねた時に、森さんを紹介しましたが、いつものように誕生日の話を最後に付け加えました。すると、菅原さんから思いがけない返事が返ってきたのです。「私も2/2のB型です」と。偶然の不思議に驚いた嬉しいできごとでした。

通信ご購読について

- 定期購読を希望される方は、1000円（およそ5年分、80・50円切手可）をお送り下さい。
- 購読期限は、お送りした時の封筒の住所下に、たとえば12ー32と号数を明記しています。